

6 代表的な確率分布関数

記法の簡略化のため、確率変数 $X(\omega)$ を X で表すこととする。さらに、 Θ で母数空間 (Parameter space), θ で母数の集合を表すこととする。

6 多変量分布

一般に、多次元の確率ベクトル \mathbf{X} の同時確率分布を多変量分布 (Multivariate distribution) という。ここでは、代表的な離散型確率分布関数と連続型確率分布関数をそれぞれ1つずつ考える。

M1 多項分布 (Multinomial distribution)

M2 多変量正規分布 (Multivariate normal distribution)

6.1 多項分布 $[M(n, \mathbf{p})]$

母集団が k (≥ 2) 個の事象 A_1, A_2, \dots, A_k からなり, $p_i = P(A_i)$, $i = 1, 2, \dots, k$ とする。そこで、大きさ n の標本を無作為復元抽出したときに、事象 A_i に含まれる標本の個数を X_i とする。この確率ベクトル $\mathbf{X} = [X_1, X_2, \dots, X_k]^T \in \mathbb{R}^k$ が従う分布を多項分布あるいは k 項分布という。

確率関数

$$p_{\mathbf{X}}(\mathbf{x}|\mathbf{p}) = \binom{n}{\mathbf{x}} p_1^{x_1} p_2^{x_2} \cdots p_k^{x_k}, \quad (0 \leq x_i, \sum_{i=1}^k x_i = n)$$

ここで、 $\mathbf{p} = [p_1, p_2, \dots, p_k]^T \in \mathbb{R}^k$, $\binom{n}{\mathbf{x}} = \frac{n!}{x_1! x_2! \cdots x_k!}$ である。

$$\Theta = \{\theta = \mathbf{p} : 0 \leq p_i, \sum_{i=1}^k p_i = 1\}$$

平均・分散・確率母関数

$$E[X_i] = np_i, \quad V[X] = np_i(1 - p_i), \quad G_{\mathbf{X}}(\mathbf{t}) = (\mathbf{pt})^n.$$

ここで, $\mathbf{t} = [t_1, t_2, \dots, t_k]^T \in \mathbb{R}^k$ である.

その他 $k = 2$ のときには二項分布 $[B(n, p)]$ となる.

6.2 多変量正規分布 $[N_k(\mathbf{m}, \Sigma)]$

確率ベクトル $\mathbf{X} = [X_1, X_2, \dots, X_k]^T \in \mathbb{R}^k$ の確率密度関数が以下のような分布を多変量 (あるいは k 次元) 正規分布という.

確率密度関数

$$p_{\mathbf{X}}(\mathbf{x}|\theta) = \frac{1}{\sqrt{(2\pi)^k |\Sigma|}} e^{-\frac{1}{2}(\mathbf{x}-\mathbf{m})^T \Sigma^{-1}(\mathbf{x}-\mathbf{m})}, \quad (-\infty < x_i < \infty)$$

ここで, $\mathbf{m} = [m_1, m_2, \dots, m_k]^T \in \mathbb{R}^k$, $\Sigma \in \mathbb{R}^n \times \mathbb{R}^k$ である.

$$\Theta = \{\theta = (\mathbf{m}, \Sigma) : -\infty < m_i < \infty\}$$

平均・分散・特性関数

$$E[\mathbf{X}] = \mathbf{m}, \quad V[\mathbf{X}] = \Sigma, \quad \phi_{\mathbf{X}}(\mathbf{t}) = e^{i\mathbf{t}^T \mathbf{m} - \frac{1}{2}\mathbf{t}^T \Sigma \mathbf{t}}.$$

ここで, $\mathbf{t} = [t_1, t_2, \dots, t_k]^T \in \mathbb{R}^k$ である.

7 問題 6

6.1 (多項分布) 大学への通学途中の交差点に信号がある. その信号の周期は青, 黄, 赤がそれぞれ 40, 10, 60 秒で切り替わる. 一週間に 4 日通学するものとして計 8 回その信号に出会う. その時, 青である回数を X_1 , 赤である回数 X_2 として, 以下の問いに答えよ.

- (1) 確率変数 X_1, X_2 の同時確率密度を求めよ.
- (2) 青と赤の回数がちょうど半分の 4 回ずつとなる確率を求めよ.